

# 会議結果のお知らせ

## 1 開催した会議の名称

令和5年度第2回岩手県公共事業評価専門委員会

## 2 開催した日時

令和5年7月14日（金） 9：30～12：00

## 3 開催場所

岩手県水産会館 5階 大会議室（盛岡市内丸16-1）

## 4 出席委員

小笠原敏記専門委員長、石川奈緒委員、伊藤幸男委員、清水真弘委員、谷本真佑委員  
（6名中5名出席）

## 5 議題等

### （1）議事

#### ア 公共事業の再評価について〈継続審議〉

詳細審議地区5件について、事業担当課から詳細な説明があり審議を行った。

その結果、3地区（経営体育成基盤整備 星山・犬吠森地区、地域連携道路整備事業（地域密着型）主要地方道花巻北上線黒岩、治水施設整備事業 一級河川和賀川）については、次回以降も審議を継続することとした。

#### ■ 専門委員からの主な質疑、意見は次のとおり

##### 【経営体育成基盤整備事業（星山・犬吠森地区）】〈審議継続〉

（質疑）

吸水槽を既設利用する予定だったとのことだが、この吸水槽は、いつ造られたものか。

（回答）

吸水槽を含む揚水機場の築造時期は、昭和39年頃である。

（意見）

築造からかなり経過していることから、揚水機場に付随する物は全て更新するという考えで当初から計画しても良かったと思う。

（質疑）

スライド9枚目の事業計画の変更内容の有無及び内容について、用地買収補償費の項目の増減内訳の「工法変更」とは、工法変更に関わる用地買収の費用という理解で良いか。

（回答）

この用地買収補償費の増額は、揚水機場ではなく、区画整理の工法変更に伴い新たに追加された電柱移転や水道の移設補償費のことである。揚水機場の用地買収費については、当初計画から変わっていない。

（質疑）

農地利用集積率について、平成25年時点の68.6%、それに対する目標値の80.0%、そして、令和4年度末時点の86.6%の算出過程について、次回以降、説明して欲しい。

##### 【地域連携道路整備事業（地域密着型）（主要地方道花巻北上線黒岩）】〈審議継続〉

（質疑）

拡張便益について、⑤大型車すれ違い困難箇所の解消便益、⑥歩行の安全性・快適性の向上便益は、両方とも住民のCVMの支払い意思額によって算定されているが、住民の意識調査の対象範囲は。

また、CVMへの係数である、⑤の「受益者数」、⑥の「影響範囲面積」は、どのように設定しているのか。

(回答)

CVMの支払い意思額は、「道路投資の評価に関する指針」を参考として算定している。対象範囲については、東北などの地域性の設定は特にない。

大型車すれ違い困難等の受益者数は、簡便的な算定として、日常的に利用する世帯が1日1往復するということを想定し、予測交通量の2分の1としている。

安全性の影響範囲は、歩道整備区間延長600m、幅50mを支払い意思の影響範囲面積としている。

(質疑)

拡張便益の算出方法について、次回以降、改めて説明して欲しい。

(質疑)

環境等への配慮に要する経費として、再生砕石を使用した金額が記載されているが、これは再生砕石を使用したことでプラスでかかった経費ということか。

(回答)

これは再生砕石を使用した実経費であり、掛かり増し経費ではない。

(質疑)

別な事業では、再生砕石の使用によりコスト縮減が図られた事例もあるようだが、この事業ではどうなのか、次回以降、説明して欲しい。

(質疑)

国の河川事業では、花巻市側の護岸整備も当初計画されていたようだが、なぜ県が単独で整備することとなったのか。

(回答)

当初は、道路の縦断勾配がそれほど高くない位置に検討されていたため、洪水が及ばないように山付けの位置まで堤防を上げる必要があったが、道路の縦断勾配を上げることで、より高い位置に堤防が取りつく計画となったため、堤防の終点位置が変わったものである。

#### 【広域河川改修事業（夏川ほか）】

(質疑)

参考値の岩手県側のB/Cの算出にあたっては、宮城県側にある高齢者施設は考慮していないと理解して良いか。

(回答)

そのとおり。

(質疑)

治水経済マニュアルの改訂で、農地、農業用施設等が独立した形となっているが、農地の面積はどのように算出しているのか。

(回答)

農地の面積については、令和2年度の国勢調査結果に基づいて、地形データにメッシュとして数値を入れ、それを氾濫解析の該当する部分の面積を算定して合計値を計上している。

#### 【治水施設整備事業（和賀川）】〈審議継続〉

(質疑)

若畑工区の浸水範囲の中に主要地方道盛岡横手線があると思うが、もしここが浸水した場合、迂回が発生する可能性がある。この事業によってそれが回避されるといった効果があると思われるが、B/Cの算定にあたっては便益に計上されているのか。あるいは定性的に評価しているのか。

(回答)

一般資産の被害ではないため、この事業の便益には計上していない。定性的に評価している。

(質疑)

各工区の状況で青色の浸水範囲は何を示しているのか。

(回答)

平成 23 年 6 月豪雨による浸水範囲を示している。

(質疑)

平成 23 年 6 月豪雨の浸水範囲と想定浸水範囲シミュレーションの比較について、次回以降、説明して欲しい。

(質疑)

弁天工区で 2 軒浸水しているところは、道路を伝わって浸水しているようだが、これは道路の雨水枡等の改修工事で対応できるのではないかと考えられる。河川事業で対応することとしたのはなぜか。

(回答)

山のところがトンネルの形状になっていたため、上流で溢れた洪水がトンネルを通過して下流へ浸水に至ったもの。この上流側の河道断面を拡げて水位を下げたことで浸水を防止していく必要がある工区であると判断した。

(質疑)

このトンネルの浸水深や冠水していた時間などの状況について、次回以降、説明して欲しい。

(質疑)

当初の残土処理予定地はどこを想定していたのか。

(回答)

弁天工区の近傍にある西和賀町の残土置場で、平均距離として大体 5.5km のところである。

(質疑)

当初の残土処理予定地の敷地面積や、どのように状況が変わって約 49.5km 先となったのか、次回以降、説明して欲しい。

(質疑)

2 軒しかない住居を移転することで被害を防ぐという観点で、移転費用補償という考え方はないのか。

(回答)

公共事業を進めるにあたって支障が生じる場合には移転費用補償はあり得るが、浸水を理由としてそこから住居移転させる制度は治水対策には無い。

(質疑)

これまでの農地の利用の変遷について、次回以降、説明して欲しい。

(質疑)

輪中堤の代替案の検討に関する人口分布等について、次回以降、説明して欲しい。

## 【県単砂防事業（沢川目の沢（2））】

(質疑)

人的被害の算出単価である平均年収の対象地域は、平均値は、単純平均か、中央値か。

(回答)

平均年収は、岩手県市町村民経済計算を参考としており、岩泉町の平均年収である。平均値は、単純平均である。

## イ 第 3 回専門委員会（現地調査）について

地域連携道路整備事業（地域密着型）主要地方道花巻北上線黒岩（北上市）及び治水施設整備事業一級河川和賀川大野・内ノ沢～若畑（西和賀町）の 2 地区について、次回の専門委員会で現地調査を実施することとした。

## (2) 会議資料

- |          |                                     |
|----------|-------------------------------------|
| 資料 No. 1 | 令和 5 年度第 2 回公共事業評価専門委員会詳細審議対象地区 位置図 |
| 資料 No. 2 | 公共事業再評価詳細審議資料                       |
| 資料 No. 3 | 令和 5 年度公共事業評価専門委員会 現地調査行程（案）        |

参考資料 令和5年度第1回公共事業評価専門委員会の審議概要

※ 会議資料及び会議録については、行政情報センターへ配架するとともに、県のホームページに掲載します。

6 傍聴人数

一般 0人 報道 3社

7 問い合わせ先

〒020-8570 盛岡市内丸10番1号

岩手県政策企画部政策企画課 TEL：019-629-5181 FAX：019-629-6229

8 アドレス

<https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/hyouka/koukyouhyouka/1065339/1066956.html>

9 その他

政策等の評価について御意見がありましたら、上記問い合わせ先まで FAX 等でお寄せください。  
今後の専門委員会での審議の参考とさせていただきます。